

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 飯豊館)

事業所番号	0672600319		
法人名	有限会社 オキコウ		
事業所名	グループホーム 薬師温泉		
所在地	山形県東置賜郡川西町大字西大塚字横道1354-13		
自己評価作成日	平成 27年 6月 30日	開設年月日	平成 16年 7月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内には温泉があり、利用者の方々には温泉を楽しむことができる。家族とのつながりを大切にし様々な行事や、二か月に1回の運営推進会議には全利用者の家族に案内をし、たくさんの参加をいただいている。その中で意見や要望をいただきグループホーム運営に生かしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成27年 7月 28日	評価結果決定日	平成27年8月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用する方に自己の尊厳を感じながら過ごして頂きたい」を理念に掲げ、一人ひとりに合わせたケア、これまでの人生、なじみの人との繋がりを大切にしている。職員も出来るだけ利用者の思いを把握し、楽しく家族のような親しみを感じて頂けるよう普段のケアの中で努力している。また家族等との関わりを大切に、行事への参加依頼や、利用者に関する情報の共有を図り、利用者との絆を大切にしながら、共に利用者を支えていく関係を大切にしている。また、看取り等には真摯に取り組み、状況の変化の度に、医師、家族、事業所でカンファレンスが開催され、方針の共有が行われている。職員向けに看取りに関する意識調査が行われ、意識統一を図るとともに、その経験を次に活かせるよう取組も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念である、利用者一人ひとりの尊厳を保ち、一人ひとりに合わせた対応を心掛けこれまでの人生を大切にしながら、住んでいる地域や地域の人々、それまでかかわりのあった方々とのつながりを大切にし、そのつながりが継続していけるよう取り組んでいる。	「利用する方に自己の尊厳を感じながら過ごして頂きたい」を理念に掲げ、利用者の日課の中で出来ることを大切にし、今までの生活歴や習慣を継続すること、家族や知人を大切にする意識し、一人ひとりに合わせたケア、これまでの人生、なじみの人との繋がりを大切にしている。職員は理念の実践として、出来ることを大切にし、利用者の要望を受け止め、要望を表しにくい方には、家族等との関わりの中から、要望を把握し楽しく暮らせるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の花いっぱい運動への参加や近隣の保育所との交流・婦人会のボランティア・地域の獅子舞の休憩所としての交流・慰問など、地域とのつながりを持っている。毎日地元の商店から食材を購入したり、床屋を利用したり地域の発展に貢献している。	地区の行事に参加することや、地区の花いっぱい運動、ボランティアによる健康教室等で、地域との交流を大切にしている。婦人会の傾聴ボランティアの受入れ、中学生の職場体験等の受入れも行われている。地域の商店や馴染みの理容室等を大切にし、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時ボランティアや研修・見学の受け入れをしており、その都度事業所の役割を説明させていただき、疑問や質問にお答えしながら、理解と協力をお願いしている。特に地元中学生の研修では、職場体験を通じて、実際に触れ合うことで認知症への理解や介護について学んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議には、全利用者家族に参加を呼びかけ、利用者の近況報告や事故報告、行事案内、その他テーマに沿って会議を進めている。後日会議の議事録を必ず全家族に送付し、報告している。家族や地域の方、役場の方から意見をいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者家族に広く参加を求め、町職員、有識者を招いて、2か月に1回開催している。会議では、近況や事故事例、行事等が話されるとともに、看取り等事業所の取組等が説明され、様々な意見が交わされている。利用者家族の参加も多く、また、議事録は家族等に送付され開かれた会議になっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、当ホームの実情や取組みを理解してもらい、ご意見や協力をいただいている。利用の情報提供、そのほか必要に応じて相談したり助言をもらっている。	運営推進会議に参加いただき事業所の状況や取組に理解をいただくとともに、個別の困難事例等は町窓口と連携を図り、問題解決に向け協力体制を築いている。また、町の認知症に関する政策等にも積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を作成し、4点柵などやむおえず拘束が必要な場合は、家族と話し合い同意書をいただき、経過を記録すると共に、定期的に拘束の有無を検討している。職員会議や日々の申し送りで拘束しない介護への話し合いを持ち、認識を深めている。行動には必ず理由があることを理解し、玄関は常に解放してあり。外に出掛けたい時は職員と共に掛けられる環境にある。	身体拘束廃止に関する指針やマニュアル及び研修等により職員に周知している。職員も禁止の対象となる行為等をよく理解している。以前の例では、モニタリングと評価を繰り返し、日中の過ごし方や、夜の環境の整備により、拘束の解除に向けた経験もある。利用者の引き起こす危険な行為には、その原因や兆候を共有し、原因を取り除く努力をしながら、見守り寄り添うことで鍵をかけない工夫や、不適切な対応の無いよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、日々のミーティングや職員会議の中で伝達研修等を行い虐待防止について十分理解すると共に、職員と利用者が信頼関係を築くことで、虐待のない支援を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業を利用されている方がおられ、毎月の支援への対応を行っている。成年後見制度についても制度への理解に努め、利用者の実情に応じて支援を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の取組み、退所時における事業所としての支援できる範囲について説明すると共に、利用者や家族等の不安に耳を傾け、十分納得していただける説明をするよう心がけている。契約解除に至る際は、利用者・ご家族と相談を重ね対処している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中での会話や表情、態度から思いを察する努力をし、利用者本位の介護に努めている。面会時や運営推進会議の時など気軽に話せる雰囲気作りに努め、信頼関係を作っており家族や第三者の方から要望や意見・アドバイスをいただき運営に反映している。	毎月家族あてにお便りを送付したり、行事等に参加を求めたり、面会時や運営推進会議等、家族との関わりを大切にすることで、気軽に意見を表しやすい関係作りに努力している。また、傾聴ボランティアを通して、利用者が外部の者に意見等を表す機会を作っている。出された意見には真摯に向き合い運営に活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員と日常的にコミュニケーションをとり、一人ひとりの思いや要望や意見を聞き運営に反映させている。毎月代表者と各部門長が会議を行っている。又、年2回行われる独自の自己評価の際、代表者と直接意見交換する機会がある。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員の自己評価と、管理者からの評価により個々の努力や実績、勤務状況を把握してもらっている。毎月代表者と各部門長が会議を行い、職場の環境整備や条件の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望やレベルにあった研修会や講習会に参加する機会を設け、研修後は復命書にまとめ回覧または職員会議にて伝達研修を行い、情報の共有化をはかり全職員の質の向上に努めている。新たな資格を取得する者には、勤務の考慮をいただいている。	事業所独自の自己評価を年に2回、職員が行うことで、代表者等はケアの実際と力量の把握に役立てている。外部研修には積極的に取り組み、希望や職責に応じて派遣している。毎月行われる会議の中で伝達研修を行い、情報の共有とサービスの向上に活かしている。法人も資格取得の支援を行い、サービスの質の向上に努力している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県のグループホーム協会主催の交換実習に参加、受け入れを行い、交流の機会を持っている。また、グループホーム置賜ブロック会での研修や会議に参加し、情報の交換や勉強会を行っている。	グループホーム協議会に登録し、研修や交流会、交換研修への派遣・受け入れ等を通じて同業者との情報交換の場を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の聞き取りを行い本人が望むこと・不安に思うこと引き出し、気を使わないでいられる環境を作り、信頼関係を築くよう努めている。安心できる場所と思っただけのよう、初期の関わりには特に気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に関する情報を細かく聞き取り、家族が望むこと・不安に思うことに耳をかた向け、信頼関係を築くよう努力している。入所当初は、こまめに様子をお知らせし安心感を得ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や話し合いを持ち、本人が今必要としていることは何か、本人の状態に一番あった支援は何かを相談させていただいている。場合によっては他のサービス利用ができるように柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に、家事やお茶飲みをしながら昔の話をしたり、できることをしていただくことで、共に生活する一員としての居場所ができています。利用者同士、職員へのねぎらいの言葉などがいつも聞かれ、お互いにいたわりあう関係ができています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折りに触れ日々の生活の様子や気付いたことの報告、ご本人にとってよい方法は何かを相談しあっている。行事への参加も毎回いただいております。時間を共に過ごしていただいている。家族にホームに泊まっていたり、自宅への外出など、共に支える関係ができています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会でき、家族・友人が面会に来られたとき、ゆっくり面会できるよう気配りしている。家族だけでなく、遠方の子ども等にも月1回のホーム便りを送付し、様子を知らせている。入所前からの行きつけの床屋やパーマ屋での散髪などの継続や買い物の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や日常過ごす座席に気を配ったり、トラブルを未然に防ぐよう目配り・気配りに心がけている。できる人が進んで他者の下膳をしてくれたり、支えあって生活している。毎日、利用者同士で施設内の観音様にお参りに行く際も、手をつなぎあったり、声を掛け合う関係ができています。新聞を皆で読んだり、談話室での交流を楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり、入院された利用者にも、時々会いに伺っている。又、退所後、再度家族からの相談がある際はその都度話を聞き、本人・家族の不安を取り除くよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分のペースで過ごしていただけるよう、利用者の言葉や表情を大切にしている。日常的に会話することにより、希望、意向の把握に努めている。コミュニケーションをとれない利用者さんの表情、動きを見て思いを読み取っている。	職員等は利用者との日々の生活の中での会話や表情から思いや意向の把握に努めている。センター方式を一部活用しながら、職員各々が気づき等を加え、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生育歴・生活歴等をお聞きしたり、前施設やケアマネージャー、場合によっては、ヘルパーからも今までの生活の様子を聞いている。日常の会話の中からこれまでの生活の様子や生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や生活リズムをつかむと共に、暮らしの現状やできたこと・変化を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。職員同士、日々の申し送りをしっかり行うことで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、意見やアイデアを出し合い、また本人・ご家族のほか、必要とされる関係者の話しを聞き、それぞれの意向を取り入れながら、現状に合うプラン作りをしている。期間に応じた見直しのほか、状態に変化が見られた場合には、話し合い、状況に応じて見直しをして対応している。	毎月利用者の担当者によりモニタリングや計画の評価が行われ、毎月カンファレンスを開催し計画作成担当者等と意見交換を行い、職員の気づきやアイデアを生かしながら、状態等に応じて見直しを行って行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子の記録、バイタル・食事摂取量・排泄状況のチェック表、通院記録簿を個別に記録するほか、職員間の連絡には申し送りノートを利用して、連絡の徹底・情報の共有を図っている。月毎にサービス計画に対しての評価を記入し、見直しに活かしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理髪店に行き散髪したり、地域の理容店の協力でホームでも床屋を利用できるようになっている。毎月、ボランティアによる健康教室を開き、一緒に楽しんでいる。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を大切に、職員付き添いによるかかりつけ医への定期受診と共に、特変事の対応についての指導をいただいている。状態の変化に応じた総合病院への紹介など、かかりつけ医との連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は従前の医療機関を大切にしている。原則事業所で通院支援が行われ、状況に応じて家族の同伴をお願いしている。情報を管理するための「通院記録簿」には、事業所内での利用者の様子や医師からの診断結果等が記載され、家族への報告が記録され、事業所、医療機関、家族等との情報の共有が図られている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師に日々の健康状態や受診時の情報や薬の変更などを伝えると共に、日頃の関わりから捉えた疑問や急変時の対応についても連絡・相談し、指導や助言をもらっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の不安を考え病院にこまめに面会に行けるよう体制を整え、担当看護師や医師との情報交換に努め、全職員に情報が行き渡るようにし早期退院できるように努めている。入院の際はサマリーによる情報提供をし、退院に向けてのムンテラに出席し情報をいただき連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護に当たり、早い時期から本人・家族から意向を聞き、事業所でできることを見極めながら、安心して最後を迎えられる支援に取り組んでいる。重度化指針を作り、それぞれの家族の意向を確認しながら、かかりつけ医・家族・職員・看護師が話し合う場を設け、個々の段階に応じた対応をしている。	看取り等には真摯に取り組んでいる。入居の段階から看取り指針を用いて説明が行われているとともに、状況の変化の度に、医師、家族、事業所でカンファレンスが開催され、方針の共有が行われている。また、職員向けに看取りに関する意識調査が行われ、意識統一を図るとともに、その経験を次に活かせるよう取組も行われている。看取り等の研修も力を入れ、外部研修やその報告を通じて、サービスの質の向上に繋がるよう努力している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市町村の救命救急講習に参加し、定期的に救命救急の訓練を行っている。また、起こりうる事故について予測し、対応についてシミュレーションを行っている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署を招いての防災訓練を行い、利用者にも参加していただいている。避難経路の確認・消火栓や消火器の使用法など実際に訓練を行っている。特に、夜間の災害を想定し、定期的に通報訓練を行ったり、職員が少ない中でも避難させられる方法を訓練している。災害時には避難場所など地域の方の協力が得られるようお願いしている。	年二回避難訓練を実施している。日中や夜間想定し行われるとともに、消火設備の使用法、避難経路の確認、通報訓練等が行われている。各部屋ごとの利用者の避難方法の情報が印され、実践的な体制の構築が進められている。災害等への備蓄等も行われている。一昨年の目標達成計画に従い、地域住民への協力の呼びかけも行われているが、実現には至っていない。	今後も地域住民との協力体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりあい方を常に認識しあいながら利用者がその人らしい生活・生き方ができるようプライドやプライバシーを損ねないような対応をするよう心がけている。また、他のご家族や来訪者に対するプライバシー保護にも努めている。	理念に掲げる通り利用者の尊厳を大切にしている。親しみのあまり不適切な言葉使いや対応の無いよう職員が普段から注意し合っている。職員は利用者各々の情報を共有しながら、その人に合った言葉かけや対応に努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて声がけを行い、自分の意思で決定できるよう働きかけている。意思表示が困難な方には表情や仕草から希望・思いを推測して支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやその日の気分を大切にしながら、その都度声がけをしながら支援している。日中の休息、夜のテレビ観賞など、希望に添った過ごし方ができるように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧が日課の方にはその環境を整えている。行きつけの理美容店への外出や、施設へ出張していただき散髪出来る環境を整えている。また、外出着や普段着もその人らしい装いができるように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、一人ひとりの好みに配慮した食事を提供している。食事の準備・食事・後片付け等、利用者と一緒にしている。医師からの制限や指導のある方に対しても、一人ひとりにあった食事形態での提供、見た目により差がないよう調理法や盛り付けを工夫している。	毎月行われる食事会議では、利用者の好みに合わせられるよう努力している。嗜好を聞いて代替え食等の提供も実施している。調理の過程に利用者にも加わって頂き、職員と会話を一緒に楽しみながら家庭的な食事の風景があった。外食や行事食を交えてアクセントを入れることにより、食事が更に楽しみになるような工夫も行われている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に制限のある方には、栄養とカロリー、味付けを考え、食べる量を調整したり、調理法を変えている。嚥下機能が低下した方には刻み・ミキサー食・とろみ・ゼリーで対応している。お茶飲みに誘い水分摂取を促し水分量確保に努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、見守り・介助と、個々の能力に合わせて毎日朝夕の口腔ケア(義歯洗浄・歯磨き)を行っている。昼は、必ず食後にお茶を飲んでもらい、できる方にはうがいをしてもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	表情や仕草から排泄のサインを読み取り、羞恥心に配慮しながら、一人ひとりに合わせたトイレの声かけを行いトイレでの排泄支援をしている。また、記録をきちんをとることで、排泄状況やパターンを把握し、失敗なく排泄できるよう支援している。	排泄リズムを把握しながら、適時の声掛け誘導により、トイレでの排泄を重視し支援を行っている。支援の結果自立に向け効果があった事例も見られる。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気を配り、乳製品や繊維質を摂取してもらっている。また、便秘の方にはかかりつけ医への相談と共に、適度な運動・排便時に腹部マッサージを行うなど自然排便を促している。車椅子の方でも、トイレでの排泄を促している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴の声かけを行い、ご本人の希望やタイミングにあわせて入浴していただいている。入浴時好きな音楽をかけたり、楽しんで入浴できるよう支援している。それ以外でも、必要に応じてシャワー浴など対応している。	事業所では温泉があり毎日入浴することも出来、好評を得ている。入浴を好まない利用者にも声掛け等を工夫し、清潔を保持している。身体状況に応じて、2人介助や機械浴を使用し安全かつ快適に入浴できるよう支援している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態を把握し、個々の活動。リズムに応じて休息していただくよう支援している。また、安眠できるよう、心の安定と日中の過ごし方に気を配っている。安心・安全に休めるよう、照明の工夫、動線の確保等の室内環境作りを行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬を確認しており、それぞれにあった飲み方を工夫している。服薬の変更時は経過観察をきちんと行い、主治医に報告し指示をもらっている。誤薬や飲み忘れがないよう毎食毎確認している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の洗濯物干し・たたみ・家事手伝い等それぞれが役割を持ち、楽しみながらできるよう声かけしながら一緒に行っている。土地の風習を大事にし、季節ごとの作業を行っている。毎月、ボランティアによる健康教室を開き、脳トレ・体操・カラオケ・ゲームなど楽しみながら気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気に応じてドライブや散歩・買い物に出かけられるよう支援している。家族にも一緒に行事に参加していただき、そのほか、家族や知人に外出の付き添いなどもしていただいている。お墓参りなどの支援も行っている。	家族の参加を呼び掛けながら行事としての外出や、家族の協力を得ながら自宅、墓参り等の外出を行っている。また、買い物や、散歩、畑仕事等日常的に外気に触れる機会を作り、気分転換を図る機会も数多く確保している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には所持していただき、自己管理が難しい方も外出時に買い物をしたり、できる範囲で使えるように支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要求があったり、行動から推測して家族への連絡がとりたいような時は電話をして話できるようにしている。毎月のお便りと共に手紙や年賀状などでご家族や知人とのやり取りを行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、季節感を取り入れた装飾、歌の歌詞を利用者の希望を聞きながら作り飾っている。食事作りのにおいや音を聞き、生活感を感じることができる。夜遅くまでリビングでテレビを見る方には、イヤホンを使用していただき、お互いが心地よく過ごせるよう工夫している。定期的なワックスかけや日々の清掃できもちの良い空間作りを心がけている。	玄関や居間は季節感を大切に飾りつけや花等を飾っている。温度、湿度等が管理され、空気清浄機等も活用し快適な空間作りに努力している。毎日清掃を行い清潔感を保っている。畳やテーブル、談話室等が配置され、利用者各々が居心地良く過ごせる思い思いの空間がある。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の定位置の場所がそれぞれある。また、食堂の脇にソファを置き、外を眺めながら過ごすことができる空間を作っている。和室や談話室で、気の合った同士がいつでも自由に座ってくつろぐことができるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の慣れ親しんだ家具や寝具、装飾品、アルバムなどを持ってきていただいている。家族と撮った写真を飾ったり、家族からの手紙なども見えるようにして自分の部屋として居心地よく生活できるよう工夫をしている。	居室は空調が管理され、清掃も行われ清潔感がある。それぞれの部屋は、思い出の写真や、なじみの家具等が配置され、一人ひとり居心地良く過ごせるよう工夫されている。家族が部屋に泊まれるよう配慮されている部屋もあった。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを活かし、手すりを使っての立ち上がりや移動、廊下での歩行練習、花の水やりなどを行っている。場所ごとに目印や表札をつけ分かりやすいように工夫している。使用するトイレを固定することで混乱なく安心して生活できるようにしている。		